

令和2年 12月号

家庭教育学級

のびっこ

恵那市生涯学習課

社会教育指導員 堀



アンケートにご協力、ありがとうございました！！

9月から乳幼児期の家庭教育学級を再開したばかりなのに、11月には毎年行っているアンケートを実施しました。初めて入級された親子は「どんな活動をするのだろう」とか「1回の活動時間はどれくらい」と??が頭の中をぐるぐる回転している時期でした。1~2回しか参加していないので、質問に何を答えたらいいのだろうと悩んだに違いありません。でも、集まってきたアンケート用紙には学級生の気持ちがいっぱい詰まっていました。特に新型コロナウイルス感染症の影響で、子育ての苦労や悩まれた様子が伝わってきました。(一部紹介 原文ママ)

【巣ごもり期間に感じた子育ての難しさや不自由・大切にしたこと・地域や家族の支えなど】

- ☆家の中や外の散歩だけでは遊びが限られてしまう。子ども同士で遊ばせたいのに、交流の場がない。
- ☆家にこもっているときは、やっぱりストレスだったのかと思う。短い時間でも乳幼児期の家庭教育学級や支援センター等、外に出ることで子どもがニコニコしている顔を見て、楽しい場所や受け入れてもらえるところがあることを実感した。
- ☆子どもが小さいのでマスクをつけることができなかったので、ちょっとした買い物の時にも気を使いました。
- ☆子育て世代で1番困ったのは、買い物(食料)です。我が家は子守を確保できるので大丈夫でしたが、きっと仕方なく子連れでスーパーに連れて行っているだろうに、私にさえ周りの冷たい視線は感じました。
- ☆上の子どもたちは休校・休園中であっても生活リズムや時間割で動くことを「忘れず・大切に・崩さない」ようにしました。巣ごもり期間中は家の中や敷地内で体を動かし、遊ぶこと、自然を感じることを大切にしました。田舎に住んでいて水遊び、薪割り、畑の仕事、山菜取りなど書ききれないたくさんのお話を、この期間中だからこそ、子どもたちは体験できたので大変でしたが、有意義に過ごせたと思います。
- ☆新型コロナウイルス感染症の影響で、ステイホームになり、この場所に住んでいたら、ほぼ何のデメリットもないことを学びました。元々、家族と近所で支えあっているからです。コロナが無くても、ここに住んでいたら、毎日見守られているので、温かいです。そのことに気づくことができ、より一層、愛着がわきました。田舎に住んでいて、元々公園も店もないので、生活様式が大きく変わっても、ストレスになることはありません。
- ☆恵南地域は身近に通えるところが、唯一、ここになります。育児をする上で、学んだり遊んだり相談したりすることはとても大切なことなので、たとえ少人数でもなくならないで、ずっとあるべきだと思います。どの地域に住んでいても、誰もが育児しやすい環境を整えるべきだと思いますので、今後ともよろしくお祈りします。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果は来年(2021)1月に学級生のお手元に届くように準備しています。回答に上がっている声すべてとまではいきませんが、来年度の学級運営に活かされるように、努力したいと思います。

“にこにこ”笑顔で迎えたいですね！ お正月 (^^♪

コロナの影響を受けた1年でした。「来年は！」の気持ちでお正月を迎えたいですね。

佐藤一斎先生の『言志四録』の教えを子育てに生かす

こ おう れ き し こ げん せ かい
古往の歴史は、是れ現世界にして、
こ んらい せ かい こ かつ れ き し
今来の世界は、是れ活歴史ない。

(言志録143条)

古来からの歴史の線上に現在の社会は存在します。
今これからの社会は、生きている人間にとって、直接体験し
見聞きできる生きた歴史です。

過去の人間の営みや先人の英知は、未来に生きる人間の
あり方を探るうえで、重要な示唆を与えてくれます。

いうまでもなく、これは一人ひとりの人生においても同じ
です。未来は、過去と現在の先にしか存在しないのです。

「昨日は今日のために、今日は明日のために」なんですね。

子育ても同じですね。「歴史の中から未来のヒントを見つけよう」



エー十ちゃん

江戸時代はイクメンパパが多かったらしい！ (〇)

「なぜ、江戸時代にはイクメンパパが多く、幅を利かせていたの？」と素朴な疑問がわいてきます。それには次に書いたような理由があったからです。

江戸時代は子どもが親の家業を継ぐのが一般的だったので、後継者を育てることが「家」を守ることに繋がっていたからだそうです。江戸時代の父親たちは「家」の後継者を育てようと家業を懸命に教えたり学問をさせたりする熱心な教育パパです。子どもをきちんと育てられないことは「父親として恥」であり、自分のメンツにもかかわる大事なことだったらしいです。でも、厳しく育てるための体罰なんて、もってのほかです。子どもを自由に育てるための父親向けの育児本『父兄訓』も出回っていたそうですので、驚きです。

また、両親ばかりが“親”ではありません。たくさんの“親”が地域の子育てに関わっていました。例えば生まれてきた子どもの臍の緒を切る「取り上げ親」、生後2日間授乳を任せる「乳付け親」、名前を授ける「名付け親」など、子どもはたくさんの「親」たちに囲まれ、見守られて育ちます。

両親だけでなく、祖父母や親せき、地域の人々全員で子どもを育てるという意識の強さが伝わってきます。子どもの成長は喜びであり、将来を担う子どもは地域の宝だったのでしょ。

現代も江戸時代のような“全員参加の子育て”文化を傳承しみんなで子育てしていく環境を整えていきたいものです。

